

令和4年度 第1回 横浜市建築物環境配慮評価認証委員会 会議録		
日時	令和4年11月29日(火) 午後13時30分から午後15時30分まで	
開催場所	横浜市研修センター 702・703号室	
出席者	委員	秋元 孝之 会長 三井所 清史 副会長 飯島 健太郎 委員 遠藤 純子 委員 加茂 紀和子 委員
	説明者	(計画概要の説明) 株式会社 日本設計
	事務局	建築指導部：楠田担当部長 建築企画課建築環境担当：對馬担当課長、福田係長、辰己担当、戸田担当
開催形態	非公開	
議題	「中外ライフサイエンスパーク横浜」について	
決定事項	Sランクにて認証	
議事(概略)	<p>1. 審議 (CASBEE 評価について)</p> <p>(1) Q1-3.1.3 昼光利用設備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・居室棟のトップライトは事務室空間の直上にはないが、透過膜による拡散など昼光を事務室に積極的に取り込む工夫がされている。 ・天空画像解析を用いたブラインド制御については、直達日射を最低限遮蔽しつつも昼光を取り込む計画として、窓周辺の照度センサーによる室内照明制御とも関係しており積極的な取り組みとして評価できる。 <p>(2) Q2-2.2.5 空調・給排水配管の更新必要間隔</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大口径の熱源水配管にアニオン交換処理を行った水を用いることで、配管の長寿命化を図った計画である。アニオン交換処理の効果は確認されている。 ・処理装置の維持管理を適切に行うことが望まれる。 <p>(3) Q3-2 まちなみ・景観への配慮 (景観の歴史の継承)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・桜の植栽の計画は、古くからある柏尾川沿いの桜並木の景観の継承を意図した計画として評価できる。 ・河川沿いという立地の影響や、成長に伴う枝葉同士の接触等を踏まえ、適切な剪定・管理を継続していく必要がある。 <p>(4) Q3-2 まちなみ・景観への配慮 (周辺の主要な視点場からの良好な景観形成)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・敷地境界と計画建物との中間領域に開かれた緑地帯や桜並木を設けることで、周辺への圧迫感を低減し主要な視点場において良好な景観を形成していると評価できる。 <p>(5) Q3-2 まちなみ・景観への配慮 (その他：景観形成に配慮した夜間の外構照明計画)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周辺街区の外構照明の色温度との調和を図りながら、緑地の照明計画や建物からの漏れ光などが計画されており、周辺に配慮した夜間の景観形成として評価できる。 	

	<p>2. その他（評価された主な環境配慮項目の確認）</p> <p>（1）景観に関する地域への配慮</p> <p>隣接住宅地に対する壁面の離隔距離を約 50m 確保し緑の緩衝帯を配置、前面道路に面する外壁の最上階をセットバック、壁面を縮小するなど、周辺環境への圧迫感を抑えた外観となるよう配慮がなされている。</p> <p>緑地帯は地域に開かれた空間であり、地域の身近な自然環境となるとともに、歩行者に緑豊かな景観環境を提供している。</p> <p>（2）歴史ある桜並木の継承</p> <p>隣接する柏尾川沿いにおいて地域の方々により守られてきた桜並木を、敷地内にも引き入れるように植栽することで、桜並木の景観継承に貢献している。植栽計画の検討に際しては地域の活動団体との協議の上、既存桜並木に見られる樹種に加えてかつて地域で見られた樹種を復元するなど、多様な景観を提供できるよう工夫された計画である。</p> <p>（3）高い居住環境とエネルギー効率化の両立</p> <p>画像センサー制御による在室状況に応じた照明・空調のタスクアンビエント運用や、ダブルスキンによる熱負荷低減と快適な光環境の両立、全熱交換可能な外気処理空調機と床吹き出し空調機の併用など、快適性と省エネ性能を両立した室内環境が形成されている。</p> <p>敷地内全棟の熱源・電力エネルギーをエネルギー棟に集約し、熱源の最適制御や高効率コージェネレーションシステムを導入するなど、スケールメリットを生かしたエネルギーシステムを構築している。</p> <p>（4）構造・設備両面での震災時等の BCP 対策</p> <p>主要機能を有する各棟を免震構造とした上で、将来的に内部の荷重条件変更が想定される棟にはよりフレキシビリティの高い「球面滑り支承」が採用されている。また常用のコージェネレーションシステムに加え、72 時間の最重要負荷に対応可能な非常発電機を導入しており、発災時も建物機能を維持できるよう配慮されている。帰宅困難来訪者等の受け入れも踏まえて計画されている。</p>
<p>資料</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 次第 2 委員一覧 3 審議項目 4 CASBEE 建築(新築)評価マニュアル(2016 年版) 抜粋 5 環境配慮項目 (案) 6 CASBEE 評価シート 7 CASBEE 公表シート 8 設計趣旨 9 説明資料

※本会議録は、令和 4 年 12 月 16 日各委員に確認を得、確定しました。